

議会講演会

札幌大学教授であり、テレビやラジオでもおなじみの浅野教授を招いた講演会を開催。町内外から約60名の方が参加し、軽快な関西弁で新十津川町議会の現状と議会を取巻く全国的な状況などから、今後の議会のあり方についての提言がありました。

開催日 平成29年11月4日
場所 新十津川町総合健康福祉センター

講師 浅野 一弘教授（札幌大学）
テーマ 「みなさんの、みなさんによる、みなさんのための新十津川町議会」

講師の提言

《議会活動に対して》

- ◎ 町民が関心を持つ議論を展開しているか。
- ◎ フェイスブック、議会広報の内容は町民が知りたくなる情報になっているか。
- ◎ 新十津川町議会の話題が少ない、もっと露出することを意識すべき。

《定数・報酬について》

- ◎ 原案は議員で作っても、必ず町民の声を反映させること。
- ◎ 説得力があって、町民が納得できること。
- ◎ 過去の経緯をしっかりと踏まえ、新

十津川町オリジナル（新十津川方式）で考えること。

《なり手不足について》

- ◎ 投票率の低下と、議員のなり手不足は比例する→投票率を上げる工夫を
- ◎ 選挙の主役は立候補者ではなく「町民」→選挙後も町民の役割は大きい（製造物責任）



まちづくりワークショップの開催

町民と共に議会のあるべき姿を考えることを目的にワークショップを開催。3つのテーマを各グループで話し合い、考えをまとめました。

開催日 平成29年11月25日
場所 新十津川町総合健康福祉センター

各グループから次のような意見が出されました。

テーマ 1 「町民から見た議会の必要性は」

- ◎ 町民の声を行政に届けるため
- ◎ 町政をチェックするため
- ◎ 二元代表制の維持のため
- ◎ 条例を制定するため
- ◎ 町政施行者との適度な緊張関係を保つため
- ◎ 町長提案政策の可否の根拠を示すため

テーマ 2 「町民から見た議会（議員）が行うべき活動は」

- ◎ 目先にとらわれずに長期的な視野（町の将来展望）での活動
- ◎ 地域の問題点（課題）を的確に把握するための活動
- ◎ 町民の声を聞く活動（カフェなどの実施など）
- ◎ 議員個々の目標（町民目線）を定め町民に伝える活動
- ◎ 町の課題を行政に伝える活動
- ◎ 町民とコミュニケーションを積極的にとる活動
- ◎ 町民の立場になって、行政にものを言う活動（代弁活動）
- ◎ 町民の声を政策に反映させる活動

テーマ 3 「議員に立候補する方を増やすためには、どのような取組みが必要か」

- ◎ 報酬額を上げる



- ◎ 議員を辞めた後の生活保障
- ◎ 議員生活の安定基盤
- ◎ 議員活動をサポートする体制
- ◎ 議員への意欲向上を目指した勉強会等の実施
- ◎ 町民に分かりやすい議会のPR
- ◎ 日曜、夜間議会など仕事に影響しない活動環境整備
- ◎ 定数の削減

今後、町民の声も踏まえながら更に議員間での協議を深め、議会のあるべき姿最終報告に向け、定数や報酬の具体的な方向性を出し、町民への説明、報酬等審議会への諮問等につなげていくこととなります。

これまでの経緯を踏まえ、将来の新十津川町議会をどのようにすべきか、皆さんも一度考えてみてください。